

平成23年度 教育委員会事務の点検・評価の概要

－地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づく評価－

I. 教育委員会の活動

- (1) 定例会 月1回、年12回開催し、どの会議も円滑な審議ができた。
- (2) 会議の公開 規則により傍聴は認められているが、準要保護指定等個人情報も多く非公開とせざるを得ないものも多い。ここ数年傍聴はなし。会議録は整備されている。
- (3) 事務局との連携 事務局長及び学校係長の会議参加が通例であり、委員会の意向が事務局によく伝わり、連携は円滑に進められた。
- (4) 首長との連携 町長が多忙のため、教職員の研究集会へ町長の参加はなかったが、教育長、事務局長を通じた町長との懸案事項の話し合いは円滑にできた。
- (5) 教育委員の自己研鑽 箱根町の認定こども園の視察、静岡市での市町教育委員研修会及び南伊豆東小学校の町教委指定研修発表会への参加等で研鑽を深めた。
- (6) 教育施設の条件整備 園・学校訪問を通して修理すべき箇所の確認を行うとともに、在住する自地区の運動会や入学式・卒業式にも出席した。

※ 委員会の第一義である物的・人的の条件整備、特に認定こども園建設に向けて取組を進めることができた。南崎保育所の認定こども園化の論議も今後予想される。

II. 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) 教育行政に関する一般方針 「平成23年度教育委員会重点施策」を5月定例会で確定。
- (2) 職員の任免及び懲戒 南伊豆認定こども園の発足に当たり、こども園人事を一般職員に先んじて町長部局へ上申。また事務局人事については10日前に要請、教職員の人事内申は適切に行われた。なお、交通事故その他の懲戒対象はなし。
- (3) 工事計画の策定 認定こども園本格工事の開始。前年9月の設計プロポーザル、高橋事務所との手直し調整。4月入札、6月工事開始。建物工事約3億8千万円、土地購入4千5百万円、総額約4億5千万円。24年3月2日竣工式。これに伴い来年度は中央公民館の取り壊し、南伊豆幼稚園・南上保育所・差田保育所の跡地利用計画の策定又は実施が予定される。

- (4) 規則制定等 認定こども園の発足に伴い、保育所管理規則の一部改正や保育料徴収規則の全部改正など規則、実施要領等の変更・制定を行った。

※ 認定こども園関連の保育所管理規則の改正、工事等の条件整備に関わる基本事項を確実に審議した。また幼保臨時職員の待遇改善、正規職員と臨時職員の人数バランス問題等についても議論されたが、今後の課題として町当局に継続要望していく必要がある。

Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

- (1) 保育・幼稚園教育 認定こども園の建設に伴い、幼保とも耐震性の面で全てクリアできた。こども園が短期間で建設できた理由は、県所有の土地が安価で払い下げられたことや子ども全てを安全安心な施設で育てたい町民の願いがあったことに因る。
- (2) 学校教育 基礎学力と課題解決能力の育成、及び地域体験学習の推進は本町教育の重点課題であり、各校で意欲的な実践がみられた。また町費負担による複式学級、特別支援教育への学習支援員や各種相談員の配置、ALT事業等、学校支援体制も充実してきている。2年目を迎えた放課後児童クラブは、平時に20人程度、長期休業時30数人の児童が利用している。
- (3) 社会教育 町民のニーズに応えながら、芸術祭、成人式、市町駅伝等の定例行事、ふるさと学級、通学合宿等の青少年育成行事や文学講座等の臨時的行事の実施、公民館・体育館等の貸出業務、文化財保護業務等々の多種多様な活動を展開した。
- (4) 図書館経営 前年、国の交付金を受け施設や図書の実充を達成できた。利便性を求める貸出業務（24配本所、宅配、貸し出し冊数自由化）、児童向け読み聞かせ「ピロシキ」の活動。石垣りん文学記念室の3周年行事「山根基世さんと田中和雄さんによる対談」を開催し盛況であった。中央公民館廃止に伴い、図書館利用者の減少が懸念される。

※ 社会教育・生涯学習を推進し社会教育の質を向上させるため社会教育主事の配置を要望していきたい。また町史編纂に専属の学芸員を欲しいところだが、今後の課題である。全体として教育委員会の委任事項は確実に実行されている。

Ⅳ. 昨年度評価の指摘事項への個別対応

- (1) 教育委員会の活動 「教科書の採択権」は教育委員会の職務権限であるが、委員が採択に当たって研究調査することは事実上困難であり、今後の検

討事項である。

- (2) 教育委員会が管理執行する事務 3年目を迎えた「富士山の日」(2/23)を休業日とすることに関して、その趣旨と現状を踏まえた見直しが必要である。
- (3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務 地域と連携した特色ある体験活動の奨励と基礎学力・確かな学力の育成は、本町の最重要課題の一つである。両者の関連性を検証し、行政としてできる学校への支援策を探っていきたい。

V. 学識経験者の意見

仕事分かり易く整理され、目標と課題がよくわかる。前年度と同様に点検・評価 の視点を明示したこと、前年に指摘のあった事項の改善点を表示したことは、実効性 に繋がるものとして評価できる。

開かれた教育委員会を目指し普段から保護者や地域住民の声・要望を聞くことが大切である。三浜小と南中小の統合に関して保護者からの要望等が教育委員会に挙がってくるようだが、両者間の風通しの良いことが開かれていることの証でもある。

町財政上の問題はあるが、「教育と福祉」は現代の地方行政の二大柱であり、学習 支援員や保育士等の人材あつての教育である。正規職員の確保、臨時職の待遇改善等、 質の高い人材採用に向けて町当局の理解を得られるよう地道な努力を続けられたい。